

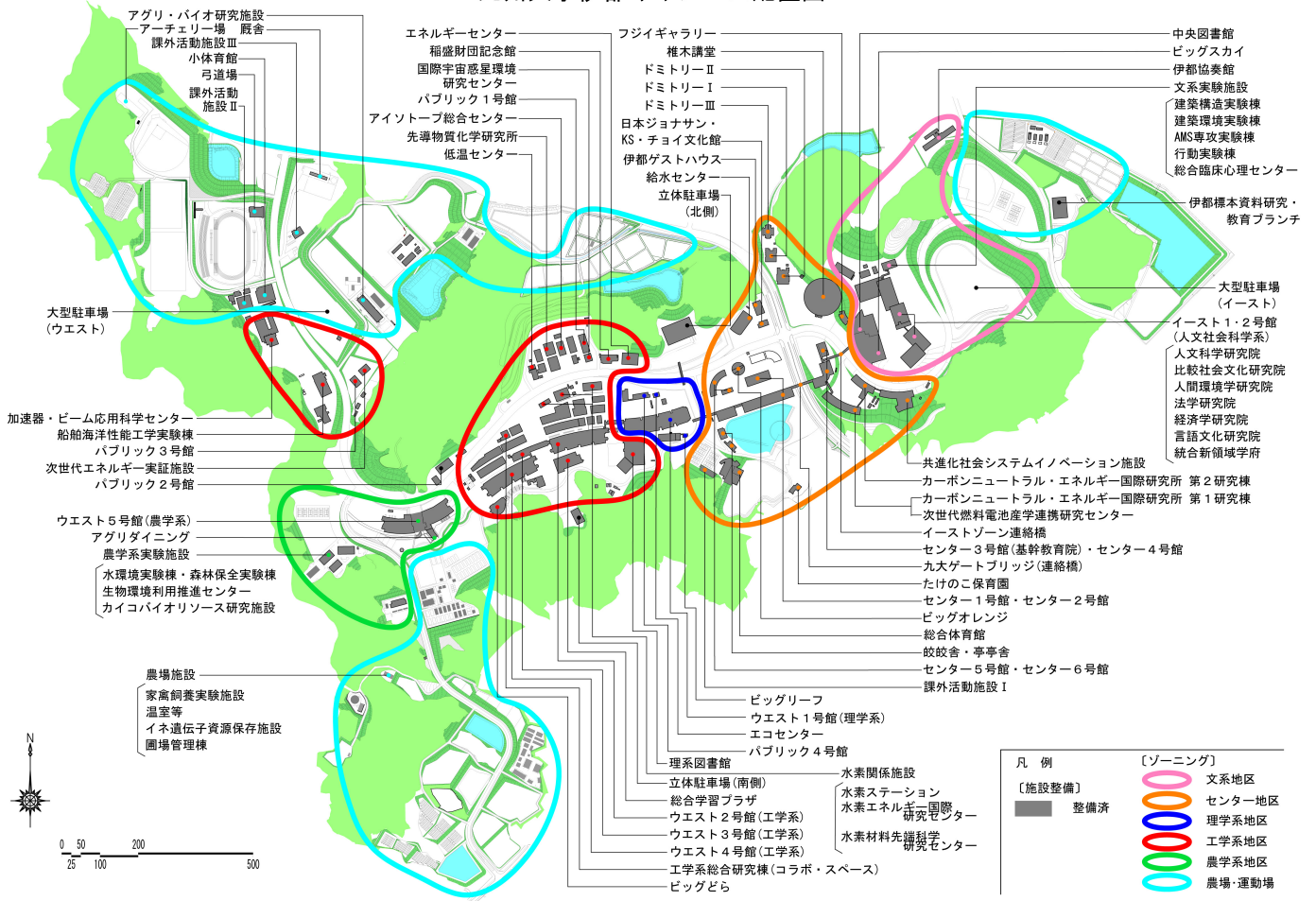
伊都キャンパスの概要



伊都キャンパスは、東西約3km、南北約2.5km、約272ヘクタールの広大な敷地です。博多湾の西、糸島半島のほぼ中央に位置しており、福岡の中心、天神から約15km、公共機関で約40分の距離にあります。

都市の近郊という利便性を持ちながら、玄界灘に望む豊かな自然が残された静謐な環境にあります。また、ここは、古くから朝鮮半島などからの往来が盛んであったことを示す遺跡が数多く存在する歴史ある地域です。伊都キャンパスは、箱崎地区（文系、理学系、工学系、農学系等）、六本松地区（全学教育等）、原町地区（附属農場）の3キャンパスを統合移転して整備されました。人口約2万人、床面積約50万㎡を誇ります。

九州大学伊都キャンパス配置図



学術研究都市構想に基づく伊都キャンパス周辺のまちづくり

伊都キャンパス周辺では、伊都キャンパス誕生にあわせてJR九大学研都市駅が開業するなど、九州大学学術研究都市構想に基づくまちづくりが進んでいます。

伊都キャンパスの隣接エリアである元岡地区では、土地区画整理事業による拠点づくりが進められ、地区内に大学等の知の集積とポテンシャルを活かし、福岡市産学連携交流センター、アイキューブオペラ(1³OPERA)、いとLab+を開設するなど、産学官連携による共同研究が盛んに行われています。

また、キャンパス南口に位置する泊カツラギ地区(糸島市)などでも、学生の住まいや研究所施設用地の整備が着々と進められています。

箱崎キャンパス跡地利用計画

移転後の箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分に向けて、2012（平成24）年には、その基本的な枠組みを検討することを目的とし、「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会」が設置され、2013（平成25）年2月に、福岡市長と九州大学総長に箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョンを提言しました。

箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョンの実現のため、跡地利用に関して必要な事項を連絡、協議することを目的に、「箱崎キャンパス跡地利用協議会」が設置され、平成27年3月には、「九州大学箱崎キャンパス跡地利用計画」を策定しました。

さらに、この跡地利用計画を踏まえ、まちづくりに共通する整備ルールや将来の絵姿等を示すことを目的として、「九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」を平成30年7月策定しました。

もっと詳しく知るには

・九州大学伊都キャンパス情報 <https://campus.kyushu-u.ac.jp/index.html> ・箱崎キャンパス跡地利用計画情報
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/campus/hakozaki-campus/useplan/>

お問い合わせ先

・施設部施設企画課 092-802-2082 内線:90-2082 ・キャンパス計画室 092-802-2096 内線:90-2096
・統合移転推進部統合移転推進課 092-642-7135 内線:99-7135